

## 謹賀新年



# 「進」



全国の印刷労連組合員の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は印刷労連に対するご理解とご協力、更にはご支援に対しまして感謝を申し上げます。

さて、2018年の我々を取り巻く環境は、政府発表による経済統計では「景気は緩やかに回復している」との報告が毎月のように示されており、企業収益についても過去最高益を上げている企業も多く存在しております。しかしながら、我々の生活感世の中の状況に反して、向上しているとは言えない状況ではないでしょうか。それは、我々消費者にも問題があると言えます。長期間に亘るデフレ経済に慣れきってしまい、出来るだけ安いものを購入する傾向から脱しておらず、消費性向が向上していない現状から物価の上昇率も鈍く、企業は収益向上分を内部留保や株主配当に回し、我々の賃金に反映されない状況が長く続いております。今年、これらのデフレ経済から脱却するべく、企業収益の適正な分配により、賃金の改善に結びつけ積極的な消費を促し、消費者物価を上昇させ、日本経済の好循環を求めていきたいと考えます。

2019年4月より「働き方改革関連法」が施行されます。長時間労働の是正や多様で柔軟な働き方、更には雇用形態に関わらない公正な待遇の確保など、働く者にとって歓迎すべく法律が施行されます。しかし、法律や制度ばかりが先行しているようにも思えます。やはり、生産性の向上なくして働き方改革は成し得ないと考えます。例えば、時間外労働の上限規制において、規制時間が近づくことによる仕事の放棄は許されるのでしょうか。法律が施行される前に各自の業務を振り返り、労使協定で定められた時間内で業務が完遂できるよう、業務の見直しが必要であると考えます。また、時間外労働をさせる事の出来る36協定の重要性を再認識することも必要であります。ある調査によると「36協定を知っている人」は50%程度で、「自社で36協定を締結している」と答えた人は40%程度と驚くべき数値が示されております。4月以降は36協定違反に罰則が付されるので慎重に対応を図る事が重要であると考えます。

印刷情報メディア産業もデジタル化や高機能化、更にはIoTやAIの活用など、事業構造の変化が求められております。しかし、我々は古来より情報を伝える産業であり、各種媒体の変化はあるものの情報を伝える社会的責任に何ら変わることはありません。印刷情報メディア産業で働く者の誇りと責任を持ち日本の産業界の一員としてお互いの活躍に邁進したいと考えます。印刷情報メディア産業が更に進化する年となるよう「進」という一文字を本年にかける想いとして選びました。印刷情報メディア産業のみならず我々働く仲間の生活や労働運動がますます進化するよう突き進んでいきたいと考えます。

今年1年が皆様にとって素晴らしい年となることを祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。共に頑張りましょう!



印刷情報メディア産業労働組合連合会  
中央執行委員長 田倉 正司

## 第7回 UNI Apro 東アジア労組フォーラム



第7回UNI Apro東アジア労組フォーラムは、2018年10月2日～3日の二日間にわたり、東京・全電通ホールで開催され、日本、韓国、台湾、香港から148名が参加し、日本からは14加盟組合より99名が参加しました。フォーラムは「実現しよう!東アジアにおけるパートナーシップ労使関係の普及を目指して」を中心に、さらに3つのテーマに分けて情報交換を行いました。

はじめに、基調講演でクリストファー・ウンUNI Apro地域書記長は、第4次産業革命で労働市場に劇的な変化が起こりつつある中、政労使の建設的な対話を通じてのみ、労働者や弱者が取り残されない、包括的な社会をつくることができると強調しました。

テーマ1は、「企業の社会的責任(CSR)推進における労使パートナーシップ」について、まずUNI本部のクリスティホフマンUNI書記長からグローバル枠組み協定(GFA)の概要説明を受けました。続いて、企業報告として凸版印刷株式会社・人事労政本部の吉田労政部長より、2008年の労使協議の中で設置され、継続して行われている「労使働きがい推進委員会」の紹介とその成果についての報告がありました。また、凸版印刷労働組合の佐藤委員長(写真左)は、労使が対立した過去の経験を教訓にし、現在の良好な労使関係があり、お互いの立場を尊重しながら、コミュニケーションをとり労使一体となって取り組むことが重要であると述べました。

テーマ2の「職場におけるハラスメントと解決に向けた労使パートナーシップ」では、連合総合男女・雇用平等局の井上久美枝総合局長より、ILO総会で条約・勧告制定についての議論経過、そのプロセスや各国政労使の異なる論点、日本政府の態度や連合の取り組み等について報告がありました。

テーマ3の「新しい多様な働き方に向けたパートナーシップ」については、情報労連から「働き方改革」をめぐる日本の状況と働き方改革関連法の内容について報告があり、実現に向けては労使が共に法を理解し運用するための集团的労使関係が不可欠であると述べました。参加した各国は情報交換を通じ、労使関係は対立から協調へ、労使のパートナーシップが不可欠であることを再確認し、労働者の利益・権利の向上と社会的影響力の強化に引き続き取り組んでいくことを皆で確認し、閉会となりました。 <報告者:古賀初代>



## UNI Apro 印刷・パッケージング部会

2018年10月9日(火)～10日(水)の2日間、マレーシア・クアラルンプールのフェデラルホテルにおいてUNI Apro印刷・パッケージング部会プロジェクト・レビュー会議および部会委員会が開催され、オーストラリア、マレーシア、インド、タイ、ネパールの各国より印刷・パッケージング関連組合のリーダーが参集し表記会議が開催された。日本からは部会担当部長の小川陽子氏、副議長の梅原全印刷局労組委員長、そして印刷労連より田倉中央執行委員長の3名が参加した。

プロジェクト・レビュー会議では現在実施中のプロジェクト評価について各国から報告があったが、未だに労働組合に対する弾圧や組織化することによる解雇通告および人員整理など環境が整っておらず、日本の労働運動が如何に恵まれているかを感じ取ることができた。また、部会委員会では2017年9月に福島で開催された部会大会後のフォローアップについて各国から報告された。印刷労連からは「労働の未来において公平性と正義を促進する」と題して①日本の印刷産業の現状②昨年の部会大会以降の取り組み③日本の印刷産業における最低賃金について報告し、「高機能化」や「高度化」更には「デジタル化」が進んでいる印刷産業において、変化への対応は「健全な労使関係」の構築と「人材育成」、そして「多様な働き方」の構築と「中小企業対策」が必要不可欠であることを訴えた。



アジアの中では比較的恵まれた労働環境にある日本として、今後もリーダーシップを発揮し各国との連携強化のもと、国際平和を目指して運動を展開していくことが必要である事を強く感じた。今回参加するにあたりご理解とご協力をいただいた関係各位に感謝し報告とさせていただきます。

<報告者:田倉正司>

教えて!

ところで UNI Apro ってどんな組織?

UNIは、世界150ヶ国、900の労働組合で構成するグローバルユニオンです。その地域組織として「UNIアジア太平洋地域組織(UNI Apro)」が存在します。拠点は、東京、バンコク、ムンバイ、ハイデラバード、ジャカルタ、カトマンズ、コタキナバル、ソウルなどがあります。UNI Aproの行動計画は①組織化と能力開発②グローバル、地域、国内企業③全ての人に社会保障と公正な雇用を④政治的影響力と規制への影響力⑤斬新で包括的な組織としてのUNI Aproです。



<マレーシアの首都・クアラルンプールには高層ビルが立ち並ぶ>

## 2018 連合 中央女性集会

2018年10月19日～20日の2日間にわたり東京都内において、2018連合中央女性集会が開催されました。メインテーマは「女性の参画でジェンダー平等を実現しよう!」とし、男女平等参画社会の実現に向けて、関連する諸課題の認識を深めるとともに「連合第4次男女平等参画推進計画」の着実な実行を目指し、情報を共有することを目的に、全国より女性648名、男性307名、合計955名が参加、印刷労連からは女性4名が参加しました。

はじめに、連合・神津会長より「いわゆる男女の対等・平等はもちろん、性的指向・性自認(SOGI)も含め、ジェンダー平等の旗手は女性であり、女性が参画している職場や組織ほど、男女差別解消や性的マイノリティに対する差別、ハラスメント防止などの取り組みが進み、差別のない安全・安心な働きやすい職場となっており、道を切り開く先駆者たることに自信をもって、取り組みを進めていきましょう」とご挨拶がありました。

続いて、連合・井上久美枝総合男女・雇用平等局長より、仕事の世界における暴力とハラスメントの根絶に関し、ILO条約と国内法整備に向けた議論状況等の報告と、連合第4次男女平等参画推進計画の取り組み状況報告や2019年度の連合男女平等活動計画について基調提起をいただきました。

次にスウェーデンのマグヌス・ローバック駐日大使より、「スウェーデンの政治における男女平等」をテーマに基調講演をいただき、スウェーデン政府として、女性と男性が社会で自らの人生を形作る上で平等の権力を持つことにコミットしていることや取り組みについての紹介がありました。

また、上智大学法学部三浦まり教授、NPO法人ジェンダーアクションプラットフォーム・大崎麻子理事、そして神津会長による鼎談が行われ、男女平等参画実現に向けた取り組み報告と現状や課題について共有する場となりました。



2日目は、5つのテーマ「職場のハラスメント根絶に向けた取り組み」「男女平等参画社会実現に向けた取り組み」「性的指向及び性自認(SOGI)に関する取り組み」「国際社会における男女平等参画の取り組み」「女性の労働相談から考える相談対応」について分科会が開催され、印刷労連の参加者はそれぞれ別の分科会に参加し、今後の活動に参考となる情報共有ができました。

女性の社会進出が進む中、まだまだ見えにくい格差が存在しています。男女が対等・平等で働きがいのある職場をめざし、印刷労連としても男女平等参画社会に向け、活動を進めていきたいと思います。

<報告者:古賀初代>

## 2018年度 女性活躍推進会議



2018年11月24日(土)東京・友愛会館において、2018年度女性活躍推進会議を開催し、11地方協議会から代表者13名が出席しました。冒頭、田倉中央執行委員長からは、「今年は2年目を迎え、印刷労連としても女性活躍に邁進していく。2016年4月に女性活躍推進法が施行され、行動計画の策定はできているが、実際にその後のキャリアにしっかりつながっているのか、数字だけが先走りしていないか疑問は残る。女性が進出してきたものの、まだまだ男女平等には課題がある。本日のグループディスカッションの中で職場の状況を充分話し合い、男女が共に働きやすい職場改善につなげていただきたい」とご挨拶がありました。

2017年度本部の取り組み報告、続いて各地方協議会より2017年度取り組み報告と2018年度の活動計画について紹介があり、情報共有と意見交換をし、2年目を迎えた今回は、職場の現状や課題について更に深掘りすべくグループディスカッションを行いました。職場の環境や働きやすい環境整備に向けて、男女間格差の現状や女性の継続就業について、更に組合における女性参画の実態と女性リーダー像など、それぞれのグループで話し合いました。まとめの発表では、法改正により女性を昇格させている傾向には戸惑いがあること、また部署によってバラツキがあること、組合の女性参画については女性比率がもともと少ないこと、また業務の他となると参画が難しい現状があるなどの意見もありました。各組織の制度について情報共有もでき、積極的な意見交換となりました。最後に穴戸中央書記長より、「そもそも男女平等参画は、男女がお互いに理解し合い、働きがいのある職場があつてこそ、女性の組合活動への参画も実現できるのではないかと。また、すべての働く人が活躍できる社会の実現には労働組合の果たすべき役割は大きい。今後も各地方協議会と連携を強化し、男女が共に活躍できる社会に向けて、一体となって取り組みを進めていきたい。次年度に向けて印刷労連の男女平等参画について方針を組み立てていくが、中長期的には印刷労連・男女平等推進計画の策定も視野に取り組んでいく」とまとめをいただき閉会となりました。参加した各地協代表者からは大変勉強になったと多くの声をいただきました。

今回グループディスカッションを行い、それぞれの職場の状況や企業の制度を共有し、対話することの重要性を再認識出来たと思います。今後も女性のネットワークで、男女に関わらずすべての人が働きやすい環境を目指し、取り組みを進めて参ります。

<報告者:古賀初代>



議長に聴く!

## 地協議長が2019年にかける「思い」を、「漢字ひと文字」で表現してもらいました。

伝

### ■北海道地協 鈴木 啓之

各構成組織には様々な課題がある中、原点に立ち返る意味でも沢山対話をし、想いを伝え、皆さんの思い・考えが「伝わる」組織として北海道地協の「伝統」を守ってまいります。

交

### ■愛知地協 小林 明

議長・事務局長だけではなく、幹事もブロック会議等の場で、他地協との交流を積極的に深めていきたいとの気持ちがあり、また真剣に考えなければならぬ世代交代も進めなければならず、その意味も含めて「交」という文字を選びました。

真

### ■宮城地協 亙理 比呂樹

新しい年も印刷業界は厳しい状況が続くと思われます。また、自然災害により多くの方が被害を受けるかもしれません。私は、課題と向き合う時、「真」に何が大切かを考え行動する事が大切だと思います。流されず「真実」を見て「真相」を知り「真理」に基づいた活動を心掛けていきます。

和

### ■京滋地協 川端 潔

互いに相手を大切に協力し合う関係、調和のとれている事。4単組の和により、みんなのためになる活動を!

魅

### ■関東北部地協 嵯峨 友成

印刷産業を魅力あるものにするべく、互いに高めあいながら楽しく元気に活動していきます!

粋

### ■大阪地協 石山 浩司

「粋」とはさっぱりした気立てで、色気も漂う身のこなしの様子を言います。「粋」な大阪地協が印刷労連を引っ張っていきます!

脱

### ■関東南部地協 高橋 康

過去から承継された慣例、風習などを大切にしつつも、一歩踏みとどまり、それが最善なのかを一考します。印刷労連30周年を迎えるにあたり、時に既成にとらわれず、新しい一歩を模索したいと思います。

激

### ■福岡地協 種田 茂樹

2019年度は、激動の一年と予想します。法改正、増税と取り巻く環境の変化に向けた活動を行っていきます。

築

### ■長野地協 和田 俊春

長野地協は平成30年10月に新たな出発をしました。2019年を迎えるにあたって、この新しい長野地協6つの構成組織で信頼関係や絆を築き上げて行きたいと思えます。

綴

### ■熊本地協 取本 剛

これまでの歩みを振り返り、今後進むべき頂(いただき)を見据えて、印刷労連の活動が幾重にも重なり重厚な組織なるよう、歴史の1ページを綴っていきたく思います。

創

### ■石川地協 藤井 雅之

地協活動の活性化に向けて、地協メンバーと共創し、積極的な運動への参加を促すような環境を創造します。



### — 編集後記 —

今号、編集人たる私の我儘で、上記の通り新年にかける「思い」を、全国地協議長に「漢字ひと文字」でしたためて頂きました。各議長におかれましては短い納期中、趣旨にご賛同いただきありがとうございました。この企画の拘りは「ひと文字」で表現頂くこと。これが2文字、例えば「努力」とか「根性」では面白くないのです。ひと文字だけでは作者の意図を伺い知ることは難しいかもしれませんが、補足コメントを知ると、文字にぐっと「趣」が出てきます。

私は毎年12月、清水寺で発表される「今年の漢字」を楽しみにしています。その年の世相を反映します。「そだねー」のように波風立てない平和な一文字が選ばれることを切に願うばかりです。(12月6日入稿につき、編集人結果知らず)

教育・広報委員会 高橋 康

ZENROGI 全労済

あらゆる暮らしのシーンをしっかりガード。

全労済は、実利を目的としない保障の提供として高度な事業を営み、組合員の皆さんの安心とゆとりある暮らしをサポートしています。お預金をおまかせいただくと、組合員になれば、各種決済をご利用いただけます。

保障のことなら **全労済**

全国のコンビニATMが気軽に利用できる。けっころ、いいよね。だから、私の、メインバンク。

けっころ使える。らうきん

働くを支える  
暮らしに備える  
生活を豊かに

- ★印刷労連
- ★全労済
- ★労働金庫